



FCP活動 令和 6 年度実績及び令和 7 年度計画について

農林水産省

大臣官房 新事業・食品産業部

食品製造課 原材料調達・品質管理改善室

フード・コミュニケーション・プロジェクト事務局



令和 6 年度 FCP活動実績報告

令和6年度 FCP活動の主な取組内容



1. 若手フォーラム
2. 食の安全・信頼に関する新たな知見の蓄積勉強会
3. 社会の変化に応じた専門的な取り組み
 - 3－1. 食品安全文化の可視化に関する研究会
 - 3－2. FCP展示会・商談会シートの活用に関する研究会
4. FCPの普及活動、交流・活動拡大
 - 4－1. 地方・FCP会員への普及活動
 - 4－2. 消費者への普及活動
5. FCP活動報告会

令和6年度FCP活動スケジュール

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
若手フォーラム	5月29日	6月27日	7月31日		9月26日		11月22日		1月24日 (予備)		
食の安全・信頼に関する新たな知見の蓄積勉強会				8月29日			11月19日				
食品安全文化の可視化に関する研究会			7月3日	8月30日	9月30日	10月25日	11月29日	12月20日	1月31日	2月28日 (予定)	3月21日 (予定)
FCP商談会・展示会シートの活用に関する研究会			7月24日		9月11日						3月12日 (予定)
FCPの普及活動、交流・活動拡大		6月12日 福井県立 大学		子ども霞が関 見学デーに合 わせたFCPこ どもページコン テンツの拡充							
活動報告会										2月3日	



1. 若手フォーラム

● 趣旨

食の安全・安心への取組は、フードチェーン全体の課題であり、また食品事業者にとっては終わりがなく、人材育成や事業者の相互関係づくりによる食品業界の体制の強化が重要

そのため、将来企業等の中心となる若手社員を対象に、リスクマネジメントの手法、規格や事業者の食の安全・信頼への取組事例を学び、食の安全・安心の観点から企業行動を考えることを目的として、FCP若手フォーラムを開催



講演内容



	テーマ・講演タイトル		
第 1 回 5月29日	「食」への信頼を創る		
	目標	FCPの趣旨・取組、若手フォーラムの目標、年間スケジュールについて理解し、参加目的を明確にする。	
	講演 1	FCPとは、～食の「信頼」をつくる「協働」の取組みフード・コミュニケーション・プロジェクト～	日本大学大学院 神井氏
	講演 2	FCP成果物と令和6年度若手フォーラム～協働の着眼点「ベーシック16」～	ライフフーズ株式会社 大澤氏
	講演 3	FCP若手フォーラムについて	フードサニテーション78 山下氏
	WS	チーム内交流、チーム間交流（名刺交換会）	
第 2 回 6月27日	食品安全と品質保証に対する考え方		
	目標	「食」に携わる関係者が協力して、消費者の「食」に対する信頼向上を図るため、食品安全と品質保証について学び、現在、そしてこれからの食品業界に必要な取り組みについて考える。	
	講演 1	規格認証を活用した品質保証・管理の取組の実際	東京海洋大学 松本氏
	講演 2	日本ハムの品質保証体制と課題解決への取り組みについて	日本ハム株式会社 加藤氏
	WS	食への信頼を創るためのこれからの品質管理、品質保証について	
第 3 回 7月31日	消費者への伝え方		
	目標	付加価値や価格について等、消費者基点の動向（思考）を理解し、消費者から信頼を得るため重要な伝え方は何かを考える。	
	講演 1	消費者のエンゲージメント（ソーシャルグッドマーケティングからブランド力の信頼向上まで）	スカイウォータージャパン合同会社 河南氏
	講演 2	消費者から理解・参加いただけるブランド作りについて	国際連合世界食糧計画WFP協会 間辺氏
	WS	「食」への信頼を創るための消費者理解	
第 4 回 9月26日	信頼を高めるコミュニケーション		
	目標	消費者の心理と行動を予測し、消費者から信頼されるコミュニケーションを構築する。	
	講演 1	消費者のリスク認知の特徴	愛知大学 山口氏
	講演 2	「モスの森」の取組について	株式会社モスフードサービス 松田氏
	WS	信頼を高めるコミュニケーション	
第5回 11月22日	◆最終成果物（活動報告会にて発表）の作成 ※予備日を1月24日に設定		

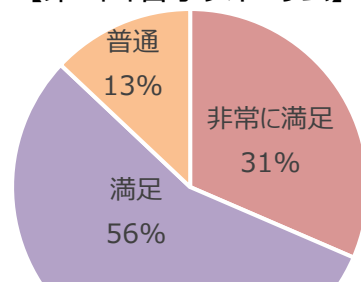
参加者の声（各回のアンケートより）①

➤ 講演・WSの内容やWEB形式でのコミュニケーション、運営に関する要望等についてアンケートを実施

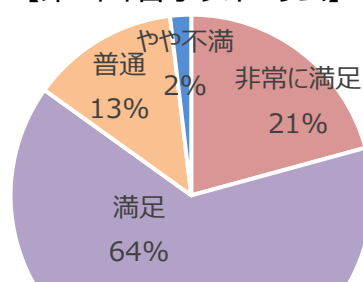
調査対象	FCP若手フォーラム参加者
調査内容	下記について、5段階評価、自由記入で調査 ◇全体を通じた感想 ◇講演について ◇ワークショップについて 等

全体を通じた感想

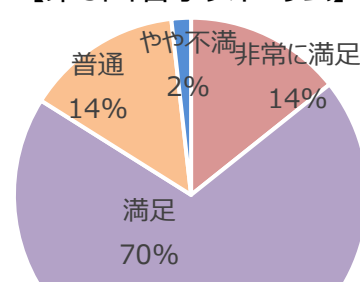
【第1回若手フォーラム】



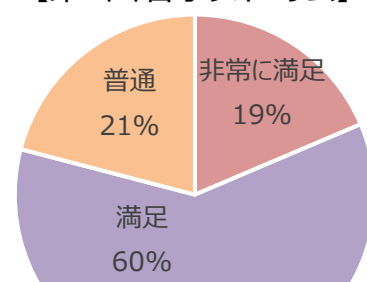
【第2回若手フォーラム】



【第3回若手フォーラム】



【第4回若手フォーラム】



様々なバックグラウンドをお持ちの方と交流ができました。次回以降もっと交流を深めていきたい。	FCPメンバーにおける食品安全や品質保証等のシステム（認証）について議論することができ、認証の種類だけでなく、その背景や課題についても考える機会となったため大変勉強になりました。	講義後の質疑応答の時間が省略されてしまうのが残念。	講義がいつも予定時間ギリギリに終わるので、質疑応答で理解を深める時間の余裕が欲しい。
せっかく異業種と交わることでできる機会なので、積極的に取り組みたい。	他の方がどのように感じたかも知りたいので、質疑応答の時間もいただけるとありがたいと感じました。	ワークショップの発表を3分にまとめるのは難しく、ワークショップの時間が余っているため、ワークショップの時間を短くしても良いかと思う。	最後のファシリテーター総括で使用されている資料の内容は非常に参考になりましたので、電子共有いただくと幸いです。
資料等は事前にいただけると予習でき、より密度の濃い時間を過ごせるので検討いただきたい。	日程が決まり次第、早めに教えていただけますと助かります。	次回もしっかりと議論して自身の成長につなげたい。	次回も、自身の成長に繋がる様に積極的にワークショップを行いたいと思いました。

参加者の声（各回のアンケートより）②

◇参加者からの感想（抜粋）

【（第一部）講演について】

- ・ 事前にFCPIについて理解していなかったので、立ち上げの背景や目的を理解する事ができた。＜第1回＞
- ・ 異なる組織の方たちと一緒に考え、取り組むことの重要性を確認できた。＜第1回＞
- ・ 規格認証の幅広さを実感した。現在の業務に関わらない規格でも興味を持って勉強したいと思った。＜第2回＞
- ・ 1メーカーで解決できないことは他社とも相談し業界として取り組む重要性を感じました。＜第2回＞
- ・ マーケティングの観点から消費者の一連の行動と時代によるプロセスを学ぶことができた。＜第3回＞
- ・ 環境や社会問題に関心がある層が増えており、ブランドイメージの向上につながるため、積極的に取り組むとともに行動をお客様に認識してもらうことが重要であると思った。＜第3回＞
- ・ 実際のリスクの大きさと消費者が感じるリスクの大きさには異なる部分があり、日々仕事をする中で頭を悩ませているところであったため、非常に勉強になりました。＜第4回＞
- ・ モスの皆様の取り組みの意義・役割について理解することができました。＜第4回＞

【（第二部）ワークショップについて】

- ・ 分野や職種が異なるため、多面的な意見が伺えた。＜第1回：チーム内交流＞
- ・ 良い機会だったが、あまりにも人数が多く流れ作業になったのが残念。＜第1回：名刺交換会＞
- ・ 事前の知識が必要なので難しかった。＜第2回＞
- ・ 初めはどんな視点から議論を進めて行けばいいかメンバー全員戸惑っていたが、ファシリテーターのアシストもあり、最終的に活発な議論できたと思う。自分とは異なる職種、異なる品目を扱う人の意見は興味深く、学びがあった。＜第2回＞
- ・ 消費者の立場になって商品やサービスについて考えることで、行政や企業に求められることを理解できた。＜第3回＞
- ・ 各チームの発表内容の方向性が異なり興味深かった。＜第3回＞
- ・ 全員に意見を振りつつ、出た意見をベースにまとめていくことができた。今日はなんかスッキリしたとの意見があり、少々達成感がありました。＜第4回＞
- ・ 今回のワークショップの過程で最終成果物の構想も話し合えた。それぞれ自由な意見を出し合いながらもある程度形になったので次回以降突き詰めていきたい。＜第4回＞

若手フォーラムの風景

講演中



参加者全員で名刺交換



仲間と意見交換



チーム発表





2. 食の安全・信頼に関する新たな知見の蓄積勉強会

● 趣旨

食の安全を高め、消費者の信頼を得るためには、食品事業者を取り巻く社会環境の変化や消費者意識の変化等を学び、社会環境の変化に応じた対応を実施していくことが重要

そのため、食の安全・信頼に関する新たな知見の蓄積勉強会では、社会の変化に対する企業活動の参考となり得る勉強会を実施



新たな知見の蓄積勉強会①



【第1回】

テーマ：食品業界の品質管理・品質保証分野における現状と課題

参加者：37社・省庁等 60名（傍聴参加含む）

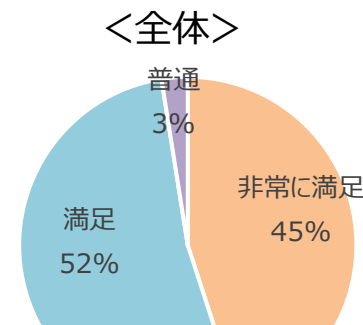
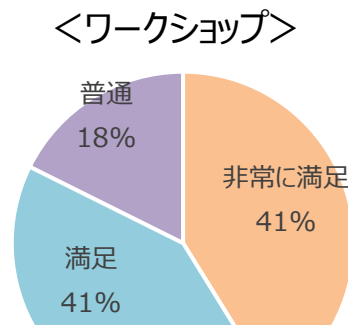
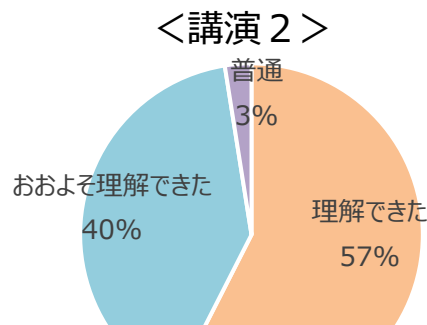
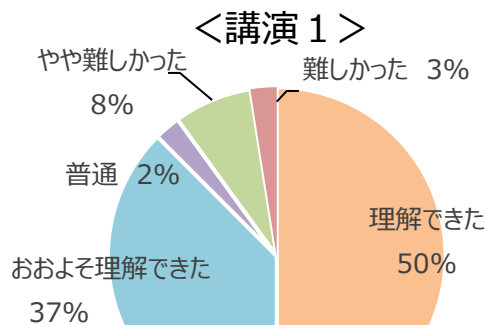
● 進め方

- ・WEB（講演のみ）及び対面のハイフレックス形式で開催
- ・講師による講義後、参加者をグループに分け、ディスカッションを行う形で実施



講演タイトル		講師
講演1	食品安全認証規格の課題に対するGFSIの取り組み	The Consumer Goods Forum, Japan 大久保氏
講演2	フードセーフティカルチャーの醸成とめざすもの	株式会社トリドールホールディングス 草野氏
WS	品質管理・品質保証分野における課題と一緒に悩み考える	

〈実施後アンケート〉



食品安全と言っても、食品防御、食品偽装と幅広くなってきており、対応が大変と感じた。	店舗での従業員教育について、新人教育と経験者の教育は違うというGPPの考え方について感銘を受けました。	テーマが幅広く、議論が難しい部分はありませんでしたが、ファシリテーターの方が導いてくださり勉強になる話がたくさんありました。	今回初めての参加となりましたが全体を通して学びが多く、また大変刺激になった蓄積勉強会でした。
FSSC22000の改定や今後の動きなどについて、今後も継続的に情報を共有していただけるとありがたいです。	教育と人材育成の違いと、マネジメント上位であればあるほど認識が不十分であること、について改めて考えさせられました。	様々な業態、キャリアも異なる方と意見交換をすることが出来、大変有益な時間となりました。自分の視野を少し広がった気がしております。	ワークショップ不参加でしたが、具体的に、どのようなテーマでグループワークが行われたのか、後日、とりまとめ書を出してほしいです。

新たな知見の蓄積勉強会②

【第2回】

テーマ：今、あらためてFCP展示会・商談会シートの使い道を考える

参加者：会場参加者25名、WEB申込者81名

● 進め方

- ・WEB及び対面のハイフレックス形式で開催
- ・講師による講義後、登壇者によるパネルディスカッションを実施



講演タイトル		講師
講演1	展示会・商談会シートに期待される役割	日本大学大学院 神井氏
講演2	ふるさと納税謝礼品の表示適正化について	農林水産省消費・安全局消費者行政・食育課課長補佐 伊藤氏
講演3	買い手から側から見たシートの効能	株式会社ビー・ワイ・オー 有馬氏
講演4	シートを使って人材を育成する	SOMPO リスクマネジメント株式会社 宇野氏
PD	これからの見える化とシートの活用	講演者 4 名

〈実施後アンケート（感想）〉

これまで複数回に渡り生産者様にFCP シートの存在を紹介してきましたが、誰一人取り組んでいただけません。「展示会・商談会出展に必須」などではない場面でFCP シートに取り組んだ生産者様はどのようなきっかけで取り組まれたのか、どこかで知ることができたら幸いです。

商談会シートをもっと声に出して、業界で使っていかなければならないと感じました。

FCP シート重要性の認識がバイヤー、販売者、どちらにしても意見が様々ではあるものの、一歩目としてFCP シート作成は必要であると改めて感じた。

FCP ツールが作成されてから10 年以上が経過し、この間に社会や消費者を取り巻く環境は大きく変化してきました。役所の取り組みとして、ツールの「書き方」や「見栄え」を改善するテクニックを追求するよりも、消費者との信頼構築や、商売の現場で実際に活用できる実効性のある提案に力を注いであっていただければと思います。これは、役所が商売の領域に踏み込むというより、現場を支える枠組みや仕組みを提供する役割に徹することが、結果的に価値を生むと考えています。

また、デジタル化が進む中で、2 次元データやAI などの新しい技術を活用し、FCP ツールを進化させる取り組みが期待されます。特に、消費者視点での情報提供のあり方や、製品や生産者の背景を伝えるストーリー性を強化することで、新しい価値を提供できる可能性が広がるのではないのでしょうか。

3. 社会の変化に応じた専門的な取り組み

● 趣旨

「セルフアセスメント」「表彰事業」「資金調達」「企業行動の情報発信」など、「協働の着眼点」の活用手法や、意欲的な食品事業者へのメリットに対応したテーマ別に研究会等を実施



3-1. 食品安全文化の可視化に関する研究会

＜趣旨＞

「食品安全への考え方・行動に影響を及ぼし、組織内で共有された価値観・信念・規範」（食品安全文化）を可視化するツールを作成し、食品事業者が食品安全について求める姿を企業文化とするための研究会を開催する。



研究会成果物

・FCP通信による公募等による構成員が、令和6年7月から、複数回の議論を重ね、アンケート形式の報告書を取りまとめ。



数値化

・食品の製造、保管・輸送、販売に関わる従業員によって、報告書に定められた各事項について、数値化を行う。



見える化

・数値化された事項について、項目ごとにとりまとめ、自社の状況や従業員の考え方など見える化する。



企業文化

・経営者等が見える化した項目ごとの数値を参考に、自社のあるべき姿に向けて、経営方針等を定め取組を進める。

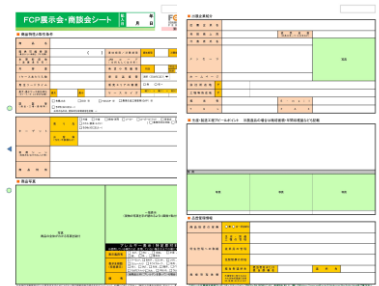


- ・ツールの研究を行う研究者と研究者へのアドバイスを行う監修者で構成
- ・構成員の所属する企業等は、24法人、25名
- ・令和6年度7月から3月までの間に、9回開催予定

3-2. FCP展示会・商談会シートの活用に関する研究会

＜趣旨＞

FCP展示会・商談会シートは、現場のニーズを踏まえた標準化活動の成果として取りまとめられ、食品業界におけるデファクトスタンダードとして機能しており、これまで6次産業化の推進や輸出促進のためにも活用されてきた。研究会では、最近の地方を含む食品産業、農林漁業をめぐる情勢変化を踏まえ、FCP展示会・商談会シートの一層の活用を実現するための活発な討論を実施する。



新たなFCP展示会・商談会シートの開発



開発の効果

地域の魅力的な商品の発掘



事業者の人材開発・育成



関係者のネットワーク充実



- ・構成員は、15企業等からなる15名
- ・令和6年度7月から3月まで間に、3回開催
- ・「今、あらためてFCP展示会・商談会シートの使い道を考える」と題し、勉強会を開催（11月19日）

4－1．地方・FCP会員への普及活動

◆地方におけるFCPに関する講演

- 地方公共団体等が、その地方の中小事業者、6次産業化に取り組む生産者等を対象に主催する商談会セミナー等において、主催者の協力要請に基づきFCP活動やFCPツール等の講演を実施
 - ・6月12日 福井県立大学 講義
 - 「フード・コミュニケーション・プロジェクトについて」
- FCP展示会・商談会シート等のFCPツールを依頼に応じて送付

◆情報発信・収集

- ホームページによる情報の提供
 - ・若手フォーラム・新たな知見の蓄積勉強会等の講演資料等を掲載
 - ・FCPこどもページコンテンツの拡充
- FCPメールマガジン等によるFCP会員に対する情報提供
 - ・FCP活動のご案内（勉強会の参加・傍聴案内など）
 - ・農林水産省の政策や事業等のご紹介
 - ・その他

☆FCP通信で配信してほしいこと（要望等）があればお気軽にFCP事務局にご連絡ください！！

4-2. 消費者への普及活動①

◆こども霞が関見学デー

- 各府省庁の業務説明や省内見学など通して、お子様が広く社会を知る機会とする（文部科学省主催）
- FCP参加企業の食の安全・信頼向上の取組を紹介し、消費者との信頼関係を築くために平成24年度から参加
・令和6年度は7月2日～8月31日に実施

○オンラインこども霞が関見学デー（マフ塾）

- 農林水産省各局が、夏休みの自由研究や勉強に役立つコンテンツを特集



◇オンラインプログラムご参加企業（19社）

- ・アサヒグループ食品（株）
- ・カゴメ（株）
- ・（株）湖池屋
- ・テーブルマーク（株）
- ・（有）十勝スローフード
- ・（株）日清製粉グループ本社
- ・（一社）日本卵業協会
- ・フィード・ワン（株）
- ・まつおか（株）
- ・明治HD（株）
- ・（NPO法人）インターナショナル
- ・キューピー（株）
- ・コープデリ生活協同組合連合会
- ・東海漬物（株）
- ・日清食品HD（株）
- ・（株）ニッポン
- ・ハウス食品グループ本社（株）
- ・（株）不二家
- ・マルハニチロ（株）

※五十音順・敬称略

次年度もぜひご参加をご検討ください！！ イベント詳細等は次年度の春以降、FCP通信でお知らせいたします☆

4-2. 消費者への普及活動②

◆FCPこどもページ

➤ 引き続きご協力いただける企業を募集し、コンテンツの拡充を実施！

(参考) https://www.maff.go.jp/j/shokusan/fcp/kodomo_page.html

農林水産省

English ミニサイト サイトマップ 文字サイズ 標準 大きく

逆引き事典から探す 組織別から探す キーワードから探す Google 提供 検索

会見・報道・広報 政策情報 統計情報 申請・お問い合わせ 農林水産省について

ホーム > 新事業・食品産業 > FCP > FCP こどもページ

FCP こどもページにようこそ!

FCP こどもページでは食品企業のお仕事を見たり体験したりできるよ!

エフ・シー・ピー FCP はFood Communication Project (フード・コミュニケーション・プロジェクト) の略称です。たべものに関係する企業や団体が、たべものを食べるみなさんと、よいコミュニケーションが取れるようにお手伝いするプロジェクトです。

FCPネットワークには、たべものに関係する企業や団体が約2,000社登録しています。その企業や団体とみなさんを『安全と信頼のきずな』でつなぎます。

FCP こどもページでは、いろいろな食品企業のお仕事やたべものについて、楽しみながら勉強することができます。また、食品企業のSDGsの取組についても知ることができます。自由研究にも役立つ情報がいっぱいです!

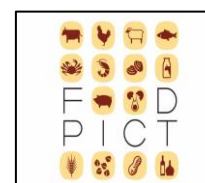
カテゴリーから選ぶ 参加企業から選ぶ

関心があるものをクリックしてね!
▼カテゴリー別にメニューをご覧になれます▼

SDGsってなんだろう?	農林水産省大臣官房新事業・食品産業部
SDGsって何だろう?	特定非営利活動法人インターナショナル
食の安心を伝える絵文字フォードピクト	株式会社湖池屋
ポテトチップスができるまでとリサイクル	テーブルマーク株式会社
いざという時に備える「ローリングストック」について学ぼう!	株式会社ニッポン
アマニのひみつ! アマニを使って、朝ごはんやお弁当を作ってみよう!	株式会社まつおか
SDGs「質の高い教育をみんなに」	株式会社明治
おいしいチョコレートが届けるために〜カカオ農家を応援しよう〜	
工場見学してみよう!	+
しらべてみよう!	+
つくってみよう!	+



随時追加掲載しておりますので、
ご協力いただける事業者様はFCP事務局までご連絡ください☆



5. FCP活動報告会

● 趣旨

食品事業者等の消費者の信頼向上の取組を持続的なものとするため、学識経験者やFCP参加企業による食の安全・信頼向上への取り組みに係る講演と、若手フォーラム参加者の発表を基にした活動報告会参加者による討論会を中心として、当該年度と次年度のFCP活動について報告するFCP活動報告会を開催

● 参加者

- 当年度のFCP若手フォーラム参加者
- FCPのネットワーク参加者登録をしている企業・団体に所属する方

● 進め方

- WEB形式と集合形式を同時開催する、ハイフレックス形式によって開催
- テーマに沿った有識者の講演、研究会の実績・成果を報告
- FCP事務局より、本年度の活動実績と次年度の活動計画を報告
- 本年度の若手フォーラム参加者が学んだことを踏まえて各班ごとに作成した成果物を発表



令和7年度 FCP活動計画



令和7年度 FCP活動計画（案）

1. 若手フォーラム 全5回（＋活動報告会）

- ・ 原則対面形式で開催
- ・ 参加者：基本的に年間を通して、対面参加できる方。講演のみオンライン参加可。（傍聴は各回で随時募集）
- ・ 全体ファシリテーター及び各チームにチームファシリテーターを設置し、WSをサポート
- ・ 第1～4回：2部構成。1部／有識者や企業の取組の講演 2部／参加者によるグループワーク
- ・ 第5回：チーム毎に最終成果物の作成（第6回を作成予備として計画）
- ・ 若手フォーラム参加者を中心に、食品安全等に関する施設等の見学を実施
- ・ 活動報告会：第5（6）回で作成した成果物の発表

2. 食の安全・信頼に関する新たな知見の蓄積勉強会（年3回程度）

- ・ 対面及びWEBのハイフレックス形式で開催
- ・ 講演後、ワークショップ等

3. 社会の変化に応じた専門的な取り組み

- ・ 対面及びWEBのハイフレックス形式で開催
- ・ FCP参加企業/会員等を発起人とする提案による継続・新規の研究会を実施

4. FCPの普及活動、交流・活動拡大

4－1. 地方・FCP会員への普及活動

- ・ 地方自治体等が開催する商談会セミナー等にFCP事務局が講師を派遣し、FCP活動やFCPツール、コンプライアンス等の講演を実施 ※形式は主催者との相談によって決定
- ・ HPやFCP通信による情報提供

4－2. 消費者への普及活動

- ・ こども霞が関見学見学デー（Webコンテンツ提供）への参加（※形式は主催省庁の指示によって決定）
- ・ FCPこどもページの拡大

5. FCP活動報告会

- ・ 対面及びWEBのハイフレックス形式で開催 ※社会状況により形式の変更の可能性あり
- ・ 構成は、①有識者や企業の取組の後援 ②若手フォーラム参加者の成果物発表 等

令和7年度F C P活動 スケジュール（案）



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
FCP会員企業等の若手対象			第1回若手フォーラム		第2回若手フォーラム	(施設等視察)	第3回若手フォーラム		第4回若手フォーラム	第5回若手フォーラム		FCP活動報告会	
	FCP会員対象				第1回 新たな知見の蓄積勉強会			第2回 新たな知見の蓄積勉強会			第3回 新たな知見の蓄積勉強会		

令和7年度 FCP活動 勉強会テーマについて（案）

◆若手フォーラム

※詳細は次年度以降のFCP通信でお知らせいたします

回	テーマ	概要（目標）	講演 / WS
第1回	『食』への信頼を創る	フード・コミュニケーション・プロジェクト（FCP）の趣旨、若手フォーラムの目標、年間スケジュール、取組について理解し、参加目的を明確にする。	・ FCPとは（発足の経緯、趣旨等） ・ 若手フォーラムの趣旨、概要 ・ 若手フォーラムで学ぶこと、体験すること ・ ファシリテーター紹介 ・ チームビルディング ・ 自己紹介とフォーラムでやりたいこと
第2回	食品安全と品質管理・品質保証	食品製造の各工程に潜むハザード（危険因子）とリスクについて考える。また、それらを踏まえて、食品を安全に提供するうえで必要となる品質管理・品質保証体制について考える。	・ ハザードとリスク ・ 品質管理と品質保証
第3回	信頼を高めるコミュニケーション	食品関連事業者間、消費者－食品関連事業者間において、信頼関係を構築し、より強固なものにするために、どのようなコミュニケーションをとるべきか考える。	・ 守りのコミュニケーション（自己開示、データをどのように示すか） ・ 攻めのコミュニケーションとのバランス
第4回	商品選択に影響を与える社会因子	昨今の社会状況を踏まえて、いま食品関連事業者に求められる社会的責任について考える。	・ 労働不足への対応 ・ 人権問題 ・ 環境問題

令和7年度 FCP活動 勉強会テーマについて（案）



◆食の安全・信頼に関する新たな知見の蓄積勉強会

※勉強会の内容は現在企画中です。詳細は次年度以降のFCP通信でお知らせいたします

回	テーマ	概要（目標）	講演 / WS
第1回	食品安全と品質管理	食品製造の各工程に潜むハザード（危険因子）に対して、それらをどのようにコントロールし、食品を安全に提供していくべきか考える。	- 品質管理概論 - 各論（リステリア他）
第2回	食品安全文化	食品を安全な状態で消費者に提供し続けるために、食品関連事業者において構築が求められる食品安全文化について考える。	食品安全文化
第3回	検討中		